

說演育教子女



從六位	從三位	男爵	男爵	伯爵	公爵	伯爵			
成瀬仁藏君	廣瀬宰平君	内海忠勝君	北島治房君	山田信道君	板垣退助君	近衛篤磨君	土方久元君	大隈重信君	松方正義君

行發堂山嵩

丹徒
印

丹

芳

海



緒言

不肖曾て東京帝國ホテルに於て諸名士の演述せられし所を筆記し名けて女子教育談と曰ひ之れを印刷し以て世の女學生諸君に紹介せり然るに本年五月廿六日女子大學設立首唱者成瀬君及び大阪諸紳士貴女の大阪ホテルに相會せられし席上に於て當日の貴賓大隈伯爵閣下以下諸名士の演述せられし所を聽くに女子教育上に就て其益する所實に尠しと爲さす是に

於て復た之れを筆記し且つ諸名士に乞ふて再び之れを女學有志の諸君に紹介することゝ爲せり世の讀む者諸名士熱心の在る所を賛し我が日本女子大學校を大成せしめ以て歐米各國に恥ぢざらんことを切望す是れ不肖の區々として紹介の勞を辭せざるをかり

明治三十年六月

嵩山堂主人謹識

女子教育演説目次

女子教育問題に就て	成瀬仁藏	一
開會の趣旨	内海忠勝	二一
日本女子大學校設立の必要	成瀬仁藏	二五
女子教育談	伯爵 大隈重信	七七
女子教育談	伯爵 土方久元	九九
女子教育談	公爵 近衛篤磨	一一一
實驗談	伯爵 坂垣退助	一二三
贊文	男爵 山田信道	一二九
女子教育と女教員	男爵 北島治房	一三三
女子教育と富國の關係	廣瀬宰平	一三九

女子教育演説目次畢

女子教育問題に就て

成瀬 仁藏

(一) 女子教育演説

教育は邦家の生命元氣となるべき人材を養成し、永遠不朽に發達すべき邦家の基礎を培養する須要機關なり。されば之が發達整頓を計らずして、徒らに邦家富強の策を講じ、永久の基礎を定めんとするは、猶ほ砂上に家を建設すると一般其風雨の厄に逢ふて傾倒せざるもの殆ど稀なりとす。

一 思ふに我邦軌近文運の進歩寧ろ驚くべきものあつて存す、其教育制度の著しく整頓發達し來りて、山村の邊、水郭の畔、兒童の學舎に昇降するより、中央大都の至世界に比肩すべ

於て夏た之しを尋記し且つ著者士と云ふて耳

(二)

説演育教子女

き帝國大學の設けあるが如き其教育普及の程度と高等教育を施す學校數との如きは之れを歐米文化の隆運と同一視すべきに非らずと雖も兎に角開國三十年間教育制度比年進歩の結果として一般國民智識の程度著しく増進し同時に無學者の數減少して迷信漸く薄らぎ惡風次第に改まり従つて國民の品位徐々上進し來りしは内外人の齊く之を認識せざるを得ざるの事實とす然り事實たるに相違なしと雖も一たび進んで之を大局の上より觀察する時は吾人をして臧點を守る能はざらしむるものあるを見るなり何ぞや我邦に於る女子教育問題はなり

説演育教子女

(三)

從來我邦に於て教育とし曰はゞ無意識的に男子教育のみを指すものなるかの如く思惟し加之實際に於ける教育機關も亦専ら男子を教育すべく備へられしが如きの觀あり勿論近來に至り僅かに女子教育の聲を聴くものあるも其の聲や實に微且つ弱にしてしかも亦女子教育とは半ば一種の遊樂なるかの如く思惟せられ其の多くは實用を期せず富裕餘りある名門富家の女子が慰み半分に學ぶが如き迹なきに非らず従つて其高等教育を施すべき學校の僅少なるも其の組織の不完全なるは吾人をして轉た悵然らしむるものなくんばあらず故に其所謂教育ある婦人と云

於て復た之れを登記し且の著者士と云ふて再

説 演 育 教 子 女 (四)

ふも多くは半知半解のもの多く世人をして往々其の弊害に堪へざらしめ遂に非女子教育をさへ唱道せしむるものあるに至る更に又教育なき一般多数の婦女子の如きは全く世運時潮の以外に別居して國家の死生存亡に關する問題に對してさへ冷々淡々相關知せざるが如きものあるなり事情斯の如くあるを以て一般社會に於ける婦女子の地位殆ど認識せられず有れども無きが如きの觀あるは是れ豈文明國の真相なる可けんや況んや之の新機運に鞭ち新運命を世界の活戰場裡に試みんとする新興國の狀態あるべけんや女子の天才を發揮し女子の本性を發揚し女子の

説 演 育 教 子 女 (五)

地位を上進せしむるは實に我邦戦後の經營問題中最急最要の問題なりと云ふも誰れか敢て之を拒まんや。蓋し女子の社會に於ける實際の地位程範圍の廣く其責任の重く其影響の大なるもの少なる可し手近かく例せば妻となりては其夫に對する責任あり母となりては其子女を教養撫育する義務あり其子女と云ふの故を以て輕視し去る事勿れ這般子女こそ之れ實に將來國家社會を繼續す可き第二の國民にして其之を教養するの責任重大なるは云ふ途もなく影響の及ぶ所寔とに一人一家に止らず延いて邦家命運の消長興廢に大關係あるを忘るべからざるな

於て夏之之れを筆記し且つ著者士て之を以て手

(六)

女子教育演説

り。經世經國に志ある者眼中豈女子問題を沒了して可ならんや、

果して然らば如何にしてか女子の天才を發揮し、勢力を發揚し、地位を増進するを得るか、此問題を解釋せんと欲せば吾人は女子教育を措て他に求む可らざるを確信するあり、然らば即戦後經營問題中の問題たる女子問題も歸着する所教育問題に在るを知らずや。女子教育是れ實に刻下の最要問題に屬す。然れども此範圍の廣く且大なる問題に對して吾人は今此に之を詳論するの道を有せず。讀者請ふ其詳細を知らんと欲せば拙著女子

(七)

女子教育演説

教育、青山堂編輯の「女子教育談及び今將に出んとする此の」女子教育演説等を一讀あれ、然るに其の後世問往々吾人の本意を誤解する者亦なきにしもあらざるもの、如し乃ち茲に吾人が近時同志と共に其設立計畫を天下に發表せし女子大學校の程度及び位地等に關し聊か吾人の所信を開陳し以て本書の序言に代へんと欲す。

吾人の今將に設立せんと欲する所の女學校は之を稱して日本女子大學校と云ふ稱して日本女子大學校と云ふと雖も其實其内部には幼稚園あり、小學校あり、高等女學校あり、大學本科あり、故に其目的も亦必ずしも唯大學教育のみに

於て夏て之しを纂記し且つ著名士にて之を考へて再

あらざるや明白なり。之を要するに、日本女子大學校設立の目的大略三つあり。一に曰く女子教育の上進を謀るに在り。是れ高等女學校卒業後、大凡三ヶ年修業の大學本科を設けんと欲する所以なり。而して此の大學本科あるは、即日本女子大學校てふ名稱の因て起りたる所以なりとす。二に曰く、學理的並に實地的に女子教育を研究し其の改善を催がし、以て愈々日本女子に適切なる教育を發達せしめんとするに在り。是れ下に幼稚園小學校、若くは高等女學校を設け、旁ら以て女子教育研究の目的を達せんと欲する所以なり。斯の如く女子教育の上進を謀り、改善を促し、以て間接に女

子教育並に教育全般の普及を助けんと欲す。是れ實に、其の第三の目的なり。故に日本女子大學校の目的は、唯大學教育のみを施すに非らず、從て其の組織も、亦唯大學部のみにて成立する者に非らざるなり。夫れ此の女子大學は本邦に於て創設に屬するのみならず、吾人は後來日本社會が進歩發達するに伴ふて益々必要を感じ來る此の女子大學部に十分力を致さんとする素志を懷くが故に、其内に幼稚園あるも之れを幼稚園とも云はず、小學校あるも之れを小學校とも命せず、高等女學校あるも之れを高等女學校とも呼ばずして、日本女子大學校とは稱したるあり。

又其程度の如きは徒らに高淵を尋ぶに非らず又卑近を好むに非ず未だ曾て世界に比類なき一種特別の吾邦婦人に必要適切なる程度の女子大學校を興さんことを期するに在り故に或る論者の言の如く強に順序を誤り程度に順着せざる架空的計畫に非ざるなり之を換言すれば吾人が設立せんとする女子大學は本邦女子の體力と智力との發達の程度に順着したる一種特異の高等専門教育を施さんことを期するものにして決して日本男兒の爲に設けられたる帝國大學と其の高さを争ひ若くは北米女子の爲に設けたる女子大學と其度を等せんと欲するものにあらざるある

り夫れ均しく大學と云ふも其程度高低參差必ずしも一定不動の者に非ざるなり世には高度の大學もあれば低度の大學もあるものなり然り而して吾人が女子大學を設立するは本邦現時の女子教育の程度を今一層高尚の度に進めんと欲するに在りと云ふは取りも直さず過度に高等なる女子大學を設くるの弊を避け本邦婦人に適合せる程度の女子大學を建て以て順次秩序的發達を遂げしめんとする所以なりとす。

又或る論者は曰く本邦女子の中等教育未だ普及せざる今日一躍して女子大學を設立するは楷梯なき樓閣を建築す

於て夏て之れを纂記し且の著者上て之れを再

ると何ぞ擇ばんやと是れ實に一應道理ある議論にして等
閑に付し去るべからざるものなりと雖も詮する所寧ろ皮
相の見たるを免れざるなり之を内外の教育史に徴するに
教育事業の普及發達の跡には自ら低きより高きに進むと
高きより低きに及ぼすとの二途あるを認む此の二途たる
や場合と時機とに臨み前後緩急に應じて偏重偏輕なく適
用採擇すべきものなりとす若し夫れ中等教育が具備完成
せざる以上は斷じて女子大學を起すべからずと云ふが如
くんば到底女子大學設立の曉を見るべからざるのみなら
ず眞個に女子教育の普及發達を妨害するの太しきものな
り

尙早論なるものは總じて何等の事業にせよ之を創設する
の際には起り易き一種の反對論にして吾人が初めて女子
大學設立の趣旨を世に公にせし時より既に業に豫期せし
所なれば其の起るは素より吾人の怪まざる所なり然れど
も世人一般が其必要を認識し一人の早尙論を唱ふる者な
き曉に至て之に着手せんか是れ既に幾分か其の時機を失
ひたるものなれば尙早論者の辨難聲裡に之れが創設に従
事するは極めて緊要のことなりとす而して吾人の意見を立
證するものは獨り教育史あるのみならず總ての事業の歴

於て復た之れを筆記し且つ著者として之を再

史は皆吾人の意見を立證するものなり。況んや本邦女子の中等教育は、其普及未だ完からずと雖も、識者の眼中には女子大學の必要既に判明なるに於てをや。

然るに或る論者は曰く、設令女子大學設立の必要ありとするも、今日之を大阪に創設するの必要を認むる能はず、何となれば、大阪の教育は未だ十分普及發達せざるのみならず、大阪の境遇は教育に有害なりと。是れ亦實に一應道理ある議論なりとす。吾人は元來關東に一校關西に一校九州に一校都合三校の女子大學を設立して之を日本女子教育の大中心點となし、以て其上進改善及普及を謀らんと欲する

の素志を懷く者なるが之を創設するの順序は通常の場合より之を云はば、先づ東京より着手し、順次關西九州に及ぼすべきを以て、當を得たるものなりと信ず。然るに日本の教育は殆んど東京に吸集せらるゝの觀あり、是れ日本教化の爲めに決して賀すべきの慶事にあらざるなり。教化の中心は成べく之を地方に分配せざるべからず、而して關西に於て京都の如きは既に京都大學の設立せらるゝあるも、關西の小腦若くは大腦の地位を占めたる我大阪に於ては、商工の發達頗る神速にして、其の機關も近年大に整頓せしと雖も、尙ほ一の教育中心點あるなし、一の教化中心點あるなし。

於て復々之しを筆記し且つ著者上て之をて耳

是れ實に我大阪の風俗が實利に偏し人情が浮薄なりとの
惡評を招く以所に非ずや夫れ然り教育機關の發達三府の
内最も進歩し居らざるを以て却て女子大學を設立し關西
に於る教化の中心點を造り以て風俗人情を改善するの必
要を認む勿論一方より之を論ずれば四圍の境遇善良なる
所に學校を設立すべきは教育學者の定論なりと雖も亦一
方より云ば學校は社會を教育し社會の腐敗を清むるの力
を有するものなれば腐敗せる社會には却て學校の必要を
認むるものなり故に素より吾人必ずしもは大阪の社會腐
敗せりとは謂されども或る論者の曰る如く大阪の社會が

果して一般の教育機關を損傷するに有力なりとせんか却
つて益々大阪に女子大學設立の必要を感せずんばあらざ
るなり且つ社會境遇の善不善良不長は到底比較のこと
のみ東京の社會境遇は善良なれども大阪の社會は不善不
良なりと云ふ者あるも是れ只五十歩百歩の差異のみ東京
の社會境遇必ずしも有効にして大阪の社會境遇は悉く有
害なるもののみにあらざるなり若し論者の説を嚴密に實
行せんとせば深山幽谷の地に學校を設けざれば能はざる
なり是れ到底言ふべくして行ふべからざるの説なり設令
ひ其の境遇に一害ありとするも亦た一利なきにあらざる

於て夏之之しを筆記し且の著台正之をて再

なり。夫れ今後の日本社會は桃源の神伯社會にあらずして
多事多忙の活動社會なり。而して日本國中社會が最も活動
し生命に充滿せる處は日本國中大阪を以て最とすべし。大
阪は實に今後に於る日本社會の活動の本源にして又中心
なり。然るに活動社會に生存する者は活動的ならざる可ら
ず。而して其の活動的の人物は活動社會に於て之を養成せ
ずんば得べからざるなり。彼の翠簾深く垂れ込めたる裡に
人ととりたる柔弱なる女子は恰も暖室中の草木と一般未
だ鍛鍊足らざれば活動的社會に於て何の貢獻する所も無
くして終らんの恐ある可し。加之教育法其宜きを得なば却

て弊風悪俗に感染せざるのみならず其の不長の境遇に對
する反動の結果は大に健全なる良心を養ふを得べきは吾
人の既に經驗する處なり。
是れ此の數點は則ち吾人が先づ第一に地を大阪に卜し
女子大學校を設立せんと欲する所以なりとす。



於て夏之日を筆記し且つ著者士を乞ふて再

一國に女子なき時は之を一般の人情より云へば善惡更に世人の心に介することなきに至るべし世の苦樂褒貶幸不幸は女子てふ溫柔の朋友あるが爲に起れるものにして之を外にしては思ふべからざるものなりされば世に女子をして漸時其位置を進め充分に其職を盡さしむるの手段程常に吾人に白面き問題はあらず。

(クオルトリー、ソヴエウ)

女子教育演説

開會趣意

内海忠勝

諸君、今夕は御繁忙中御光來を忝じけなう致しまして、發起人一同に代り、厚く感謝致します。北島氏も今夕は罷り出まして、御挨拶を致す筈でございまして、が、公務のため急に上京をされましたで、これも代りまして私が御挨拶を申し上げます。

これより開會の旨趣と成瀬君の紹介とを併せて述べやう

於て復之之しを筆記し且つ著名士たるを以て再

と考へます此女子大學校と云ふことは前年來成瀬君が刻苦經營唱導されましたことであります其女子教育と云ふことに就きましては成瀬君は殆んど身を犠牲にして所に女子教育のことを試みられましたのでございます而して亞米利加に渡航をしましてクラーク大學に入り女子教育のことを研究し廿七年に歸朝しまして直ちに「女子教育」と題する一書を著述されました同氏の滿胸の素志を公にしそれから女子大學校のことに就いて奔走されましたが幸ひに東西の貴顯紳士の續々同感の士が現はれました遂に今日に及びました次第でございます東京に於きまして

は先達發起人會續いて貴衆兩院議員其他贊助委員の大會を催しましたのでございます當地の大會も引續いて開くべき筈でありましたが東京の貴顯紳士の御來會を促すが爲に今日まで延引を致した次第でございますが時恰も好し此度大隈伯爵閣下土方伯爵閣下近衛公爵閣下が京阪地へお出向のことがありまして極く好機會を得ました譯でありますから今日を卜しまして此大會を催した譯でございますこれより右三閣下其他の御演説も續いてある次第でございます御清聴の上どうぞ此企を御賛成あらんことを偏に希望致します(拍手大喝采)

冬て夏と之れを筆記し且の著各上と云うて再



日本女子大學校設立の必要

成瀬 仁藏

貴顯紳士諸君。今日は斯くも賑々しく御光來の榮を忝けな
 う致しまして、實に感謝の至りに存じます。私は先づ第一に
 日本女子大學校の趣旨を述べべきでございます。が、これ
 は既に主意書でも陳述を致し、また拙著「女子教育」及び此頃
 出ました「女子教育談」の中にも略々表はれて居る次第でござ
 います。から、これは重ねて申し述べ、る必要はあるまい
 と思ふ。故にこれは省くことに致します。
 私が幼年の頃でございましたが、私の郷里の縣會に一大爭

於て夏之之しを筆記し且の者各士と云ふて再

子女教育演説

論が起りました其時の模様は明らかに記憶して居ります
が、これは學校と病院との先後輕重の争ひでございませ
た、甲論者は曰く健康は百般の基礎である、先づ病院を起さ
なければならぬ、乙論者は曰く教育は國家生長の根本で
ある個人發達の基礎であるからして、宜しく先づ學校に力
を致すべし、病院は後廻しにする方が宜しいと云ふことで
あつた、ところが今日でもこれに類する争ひが往々この社
會に現はれることでございます、商業家は曰く商業が第一
である、軍人は曰く軍備が第一である、又た教育家が申しま
するには教育が第一であると、斯の如くに互ひに相争ふと

云ふことは昔も今も往々起ることとございます、これ
は國家と云ふものは、彼我相須つて隆盛に赴くものである
と云ふことを氣附かざる僻説である、國家を自分と同一に
感じない、誤謬の意見であると云ふことは、誰も分ること
でございます、固より商業にあれば、軍事にあれば、その
従事するところの職業に熱中すると云ふことは、實に賀す
べきことでございます、併しこの社會と云ふものは、錯
綜せる機關を有つて居る有機體であつて、彼我相待ち、相
係し、相助け合つて成立つて居るものである、生長發達する
ものだと云ふことを忘れ、この社會大局の上より、打算し來

於て復た之れを筆記し且つ著名士たるを以て再

つて方針を立てないときには、大いなる禍害を招くことでございます。

この我日本帝國は四千萬の國民を以て成立つて居る一つの身體でございます、この身體の中には種々の機關がある即ち手足と云ふべきものがある、又は五臟と云ふべきものもある、或は腦髓神經と云ふやうなものがございまして、この總ての機關が相待つて初めて生存を保ち發達を遂げて行くことが出来る。そこでこの國家の手足となり腕力となるものは兵力であり、この身體の中を循環して、而して身體を養うて居るところの血液は商業であり、その血液の循環

を司どり、またこの四肢の運動を支配するところの腦髓神經となつて居るものは教育であらうと考へられます、それゆゑにこの身體が一つ欠ける所なく完備して居りまして、若し此中の腦髓が病氣に罹り或は神經が衰弱致しましたら、或は白痴になるか、又は麻痺して役に立たない様になつて参ります、又た之の腦髓はいくら健全でございしても、この身體の中の血液が腐れてくるか、或は循環が悪くなりなりましたならば、この腦髓は働きを全たうすることはできないやうになつて来る。それでこの社會と云ふものは、凡ての機關が相待つて一致共動し、互ひに相

於て夏之之しを筆記し且の著各士とてふて再

説演育教子女

願みて各部が活潑に活動をいたしをして、初めて進運隆盛に成ることが出来る譯であらうと考へます。國家におきましてもまたその通りでございます。その腦髓たり神経たる教育が正當に活潑に活動して居ないときに國家は麻痺し、國民は無智となるのであります。國家の諸機關は互ひに彼我の痛痒を感せず、隨て公共心並に愛國心と云ふものを失ひ私を去つて公につき、協心同力國家の大事を爲すこと能はず、四分五裂私利を是れ貪るの慘狀に陥ります。併しながら商業が衰へ工業が振はない時には、國何を以て富み、民何を以て裕かなるを得ませうか。國瘠せ民貧

(一三) 説演育教子女

しきときには、教育何を以て行はれ、人情何を以て淳厚なるを得ませうか、軍備何を以て完備し、國威何を以て發揚するを得ませうか、若しまた兵備の完備を缺くときには何を以て外國の侮辱を免かれ亡國の禍を脱することを得ませうか。そこで國家の進運隆盛と云ふものは、その萬般の諸機關が打ち揃ふて圓滿平均に發達するにあらざれば得て望むべからざる次第であります。

然るに我が國の現況は如何でありますか。諸機關發達の程度は如何でありますか。又その發達は能く平均調和してをりますか。これは大切なる問題でございませうと思ひます。

於て夏之之れを筆記し且つ著者上之を於て再

今この我が帝國の身體の中に働いてをる諸機關の發達を
これを歐米各國の有様と比較して見ましたならば如何で
ございませうか。この富の力なり、兵の力なり、教育の力なり
遺憾ながら我が帝國は未だ諸強國に及ばぬところがある。
私が今茲に之を申し上げますのは吾國民たるもの大に警覺
悟し勝て兜の緒を緊めよとの戒を服膺すべきを深く感ず
からであります。吾が國民の眞に成長發達して偉大たらん
とを熱望するより之を云ひたいです。先づ我が海國たる日
本の海軍の力は如何であるか、統計上よりいへば世界の最
で第八番目に位して居るそふであります。また我が國と最

も事情を同うして居る所の英國に於て軍備の爲めに個人
が負擔するところの金額は十圓十八錢である。然るに我が
帝國に於ては僅かに九十六錢でございまして未だ十分の
一にも及ぶことができないそふであります。それから我が
富の力は如何であるか、我が日本の金満家と云ふものは幾
千萬圓を以て數へられてをるけれども歐米の金満家と云
ふものは幾億萬圓を以て算へられてをります。その他凡て
生活の度から富の度を精密に比較して見ましたならば、これ
は申すまでもない分つてをるところの事實であらうと思
ひます。

於て復て之れを登記し且つ著者上にて之れを再

またこの國家を生長發達せしむるに最も大切な機關であるところの教育は如何であるか。これは私がこの數年間調査をいたしました我國の教育の有様と歐米の教育の有様とを比較したところの統計を屢々世に公けにしたことがございしますが、どうもまだ我國の教育の有様は歐米の文明諸國の教育の有様と比較したらどうです。我四千四百萬の人口を有して居るところの帝國と、凡そ同數の六千萬ばかりの人口を有して居るところの亞米利加の大學校の數を比べてみますると、我國に於ては大學が二高等學校が六でございす。然るに亞米利加に於ては、大學校と名づけ

るものは三百七十六、殆んど四百近くもございまして、大きな學校には二千三千少しく下りたる程度の學校には四千も一校に持つてゐるところのものがあるです。その生徒の數から申しましても、學校の數から申しましても、乍遺憾我國の教育發達の度は未だをくれてゐる、また普及の程度から行きまして、我國の小學に於ける女兒の就學數と云ふものは百分の四十で、餘りの六十人、百人に對する六十人と云ふものは、無學文盲の民を育て、居ると云ふ有様に於て居る。これは我帝國の身體の中を動かして居る身體を作つて居る、この身體を養うて居るところの、色々な機關の比

於て復た之れを筆記し且つ著者上にて乞ふて耳

較くらでございませうが、もう一つ考かんへて見みなければならぬ
ことがある。假令たとは日本帝國にほんていこくと云ふ一つの身體しんたいは少々小せうく
あつてもその諸機關しよきかんの成長せいちょうが善よく平均調和へいきんてうわして居ゐれば將しやう
來日本らいにほんの發達はつたつするところが實じつに速すみかでありませう。然しかるに我海軍われかいぐん
の力ちからは、世界各國せかいしやくこくの中で第十二番じふにばんの地位ちゐに居ゐりましたが、日
清役後にんせいつご一躍いつやくして第八番はちばん目めまで進歩しんぱしたと云ふである。また我
商工業しやうこうぎやうの機關きかんは如何いかであるか。これまで諸會社しよかいしゃの資本金しほんきんと
云ふものは、數十萬圓そくじふまんえんを以もつて數かずへられて居ゐりましたが、今日こんにち
は數百萬圓そくひやくまんえんと云ふことまでに進歩しんぱして居ゐります。また我航
路わがかうは歐米おうべいにまで延長へんちやうされて居ゐると云ふ有様ありさまである。併しかしな

がら教育けういくと云ふ機關きかんは、他の機關きかんが發達はつたつしたやうに膨脹ぼうちやうし
たやうに、同一どういつの割合わりあひをもつて進歩しんぱして居ゐらざるのみなら
ず、誠まことに萎縮わいしゆくして振ふるはない、さうも教育機關けういくきかんは停滯ていざいをして先
きへ行くことが出來きない。そこで教育けういくは是非進ひめなければ
ならない。國民こくみんを育そだてなければならぬと云ふ必要ひつやうは迫せまつ
て居ゐるけれども、その機關きかんを運轉うんてんさせる方かたがないのでござ
います。今日こんにち全國ぜんこくに於おいて小學校せうがくの正教員せいけいゐんの不足ふそくが二萬人にまんと
云ふことである。中學校ちゅうがくの教員けいゐんも足たらぬで、文部省もんぶしやうに於おいては
困こまつて居ゐらるゝと云ふ有様ありさまである。またこのごる京都きやうとに於おいては
學校がくが出來きますが、この大學校だいがくへ送おくくるところの教授けうじゆも足た

於て復て之しを登記し且つ着名士を乞ふて再

らないこれからどうも歐羅巴へ留學に遣らんければなら
ないと言ふ有様である女子教育は勿論であるまだ男子教
育の着手せんければならぬものが着手が出来て居らない
進めんければからぬものが進めることが出来ない他の機
關の發達と決して平均を取ることが出来ぬ大いに權衡
を失ふて恰も日蔭の植物のやうな有様を呈して居るので
ございます我が國の外交政略は軍艦を殖やし兵力を強め
たならばそれでよろしふござりませうか如何に軍艦が堅
固でありまして兵隊に勇氣がありまして我國から諸
方へ出て居る人民が無教育であるときは如何にして外國

の侮辱を免かるゝと云ふが出来ませうか無論外交と云ふ
ものは只だ軍艦を以てのみ出来るものではないその國民
の徳義とその國民の智識とが進歩しなければ決して對等
の交際を續けることは出来ないで御座います私が米國
から歸りますときに一と晚布哇へ立ち寄りましたがその
港には浪花艦が旋泊をしてをつたその軍艦を見て實に悦
ばしい感心が起りましたそれから港へ上つて多くの日本
人に遇ひましたですところが私はその晩どうも慨嘆に堪
へぬで能く眠ることが出来なかつたまた桑港へ行きまし
たときには感慨の情が一層甚だしゆふござりました多く

於て復之之れを筆記し且の著者上て云ふて耳

の我青年が桑港へ上陸をして居りますが、多くは墮落して居ると云ふて宜しい位である。桑港に於て墮落しないとするの青年は實に豪傑でございます。何らい人物でございます。私は其有様を云ふに忍びませぬが實に我國民は蒙昧な不徳なるところの下等人民を外國へ出すことに據りて我國辱を來たして居るのではないかと思ふ。どう云ふ有様であるか、只今一つの例を擧げますならば、彼の支那人でも野蠻人でもすることを好まないのに我國の下等人民は金錢の爲めに己れの女房を他人に辱しめさせるといふを聞きました。これは實際諸君は目撃ならぬから痛痒を御感

じにならぬかと思ひますが實際外國へ行きました、その内幕へ這入つて能く觀ますと云ふと實に慨嘆に堪へない。幾ら我帝國が軍艦や兵士を外國へ出し置したところか、若し我國民たるところの人民が腐敗したり或は蒙昧に陥つたり、即ち教育が進まずに居りましたならば如何にして我國光を世界に輝かすことが出來ませうか、この要點を摘んで言ば外交上に就て考へても教育普及の必要ありといふのであります。また商工業と教育とを比較して見ますならば今日大阪を一見した者は直ちに商工業の盛んなことを感ぜぬ者はございませぬ。併しながらこの大阪と云ふ都會の

神しん經けいとなつて居るところの教き育いくと云ふものを考へて見ま
 したならば如何であるか。またこの我わが國こくにの智ち識しきの程ほど度どを
 比ひ較けうして見みたならば如何であるか。我わが國こくには隨したが分ぶん物ぶつ品ひんを外がい國こくに
 へ輸しゆ出しゆつして居ゐります。併ししなから我わが國こくに民たみんが曾かつて我わが國こくにの智ち識しき
 を外がい國こくにへ輸しゆ出しゆつしたことがあるか。多おほくは我わが國こくにの新しん智ち識しき
 新しん學がく問もんと云ふものは外がい國こくにより輸しゆ入にちされて居ゐる。善よくこの教き育いく
 育いくと云ふ機き關くわんと商しやう工こう業ぎやうと云ふ機き關くわんとを比くらべて、教き育いくの有あり様さま
 を考へて見みますると、どうも平へい均きんが取とれない。また憲けん法ぽう其その他た
 の法はふ律りつと云ふやうな政せい治ち機き關くわんも人じん民たみんが不ふ徳とく蒙もう昧まいであつた
 ならば、何なんの役やくにも立たちませぬ。立りつ派ぱなる憲けん法ぽうも國こくに民たみんの教き育いく

が進しんまなかつたならば却かへつて國こくに家けに害がいを爲なすことがある
 地ち方ほう自じ治ちの如ごときも無む智ち蒙もう昧まいの民たみんには、その恩おん澤たくを蒙もうむらし
 むることは出で來きない。然しかるに我わが國こくにの憲けん法ぽう我わが國こくにの法はふ律りつは美み
 を極きまめ善ぜんを盡つくして居ゐるやうに見みえます。が、その憲けん法ぽうが
 進しんみ法はふ律りつが進しんみ、ぞの他た政せい治ち機き關くわんが發はつ達たつしたはどにこの國こくに
 民たみんが發はつ達たつをして居ゐるか、教き育いくはその割わり合あひに進しん歩ぽして居ゐるか
 と云ふと、これも權けん衡へいを失しして居ゐるやうに見みえます。それが
 爲ためにこの社しゃ會かいに今いま日にち種しゆ々たな腐ふ敗ぱいや弊へい害がいが現あらはれて居ゐる
 と云ふことは勿な論ろんどなたもお氣き附ぞくになつて居ゐることであ
 らうと思おもひます。

於て夏之之れを筆記し且の著者下て下りて耳

それでこの國家と云ふものは總ての機關が相平均調和し
て能く働らさを爲さんければどうしても能く成長するこ
とは出来ませぬ。然るに善く觀察をして見ますと云ふと、我
國の教育機關は他の軍備や、商工業や、政治機關などに後れ
を取つて居ります。それで私は第一にこの諸機關を外國の
身體に比較を致し、またこの我國の内部の有様を考へて見
まして實に遺憾に思ふ點がございます。またその比較を失
ふて居るところの教育と云ふ機關の内部をよく探つて見
ますと云ふと、どうもまだこの教育機關を充分これから他
の機關に後れを取らぬやうに發達せしめやうと思ひます。

るには大いに缺けて居るところの點があるやうに考へら
れる。

今私は教育機關の缺點を擧げて見たいと思ひますが、時間
が掛りますから茲には唯その箇條だけを擧げて見ませう
と思ひます。

その(第一)の箇條は我國教育の學制である。學制を茲に改革
せんければ時弊を救ふことは出来ぬと云ふ一つの必要が
迫つて居りはせぬかと思ふです。

(第二)は學理である。教育機關が眠つて居ると云ふものは、教
育の學理が眠つて居る教育の學理が研究されない、四千萬

於て夏之之しを登記し且つ著名士を乞ふて毎

の人口を有して居る我帝國が、一人の教育専門家を大學の
教育學の椅子に置く力がない。また今日女子教育に付ては
種々弊害が現はれて來た、これはいけないと云ふことは誰
も氣付て居りまするが、これを歴史に訴へ、學理に照らし、以
て研究してその方針を明らかにすると云ふこと、即ち我邦
女子教育の學理を研究すると云ふことは大いに怠つて居
る。今日は總て學理的に、根本的に研究をしなければ決して
好結果を得られないですが、我國の教育と云ふものは學理
の研究と云ふものに大いに怠つて居る。
(第三)は普及前にも少しく申しましたが殊にこの女子教育

の普及と云ふことは誠に嘆かほしき有様で、この三府四十
六縣の中で未だ高等女學校のない所は四十一縣を占めま
す。また大阪の如きは既に高等女學校を一箇持つて居り
まするけれども、その生徒は僅かに六七百人に過ぎない、そ
の六七百人の半は殆んど小學教育の程度である。これを彼
の亞米利加の「ブルックリン」即ちこの大阪と殆んど人口を
同じうして居るところの「ブルックリン」の中學校と比べて
見ますると、その公立學校には女生徒の數が二千、男生徒
の數が六百人でございませう、またもう一つの私立學校は生
徒の數は四千人を占めて、その中の三千人は女學生で

於て復た之れを筆記し且つ著名士と云ふて耳

ある。もう一つ大きな師範學校がその市街に立つて居りま
するがこれは悉く女生徒を以て成つて居るのである。さう
すると既にこの三校だけで五六千人の女學生を持つて居
るので、その他にも尙ほ種々な女學校があるでございま
す。けれどもこの大阪の都會に於ては唯一つの高等女學校
を以てそれで事が足りて行くので御座います。

(第四)は最も大切な事でございしますが、これを辨じます
と餘り長くなまりすから畧します。が即ち教育の精神で
す。

(第五)の缺點は社會教育。

(第六)は家庭教育。我國の教育機關は家庭教育と社會教育と
を缺いて居る。この事は既に東京の發表會に於て陳述をい
たしました。

(第七)の欠點は女子教育を欠いて居る。これは大變大切なる
問題であらうと思ひます。教育機關にして若し女子教育
を缺いたならば、これは片輪の教育と言はんければならぬ。
彼の江原君は、女子教育を欠いたところの教育は鳥の羽翼
の一方を切つたやうなものであると云ふことを言はれて
居る。併しこれは鳥の羽翼の一方を切つたばかりでは無い、
即ち根本を缺いて居るところの教育と言はんければなら

今更に之を手にし、毎日に其の音を聞くに、

説演育教子女

ぬであらうと思ひます。
 私が茲に我國の教育機關は女子教育を欠いて居ると申し
 ましたのは普及の程度から申したのであります、また發達
 の程度から申したのである、我國の女子教育は未だ小學校
 と云ふ區域を脱することは出來ないのである、また我國の
 女子教育は精神を失ふて居る、充分に發達をしない、この女
 子教育に付ては今日種々様々の弊害があり、また國民が女
 子教育に就て方針に迷ふて居る、是等の點を以て私は我帝
 國の教育機關は女子教育を欠いて居ると云ふ言葉を用ひ
 た所以でございます。

(一五) 説演育教子女

そこで我々が國家の有様を考へますと、これから將來を
 慮りて、是非茲に教育機關を完備させねばならないと云必
 要に迫りて居りますから、茲に日本女子大學校と云ふも
 のを設けて、その欠點を補ひ、その精神を回復し、その普及發
 達を助け、その模範を作つて、どうか方針を確定したいと云
 ふ希望を持つて居るのでございます、斯く女子教育を完備
 にして、この女子教育の力に據つて、大いに男子教育に影響
 を及ぼさうと云ふのである、即ち言を換へて云へば、我教育
 機關に根本的の改革を行はなければなるまい、根本的に改
 良をすることに力を盡して見たいと云ふ希望でございます。

す。それで今日本女子大學校——この大學校と云ふ言葉は随分諸君のお耳觸りになるかも知れないと思ふのでございますが、私の大學校と云ふ意味は東京の帝國ホテルに於て既に陳述致し、また之れに付てその考への大體を「太陽」の中にも陳述して置きましたからして、諸君の中には既に御承知の方もあらうと思ひます、また御承知のない方もあらうと思ひますが、この女子大學校の性質は如何なるものであるか、それに付てはかう云ふ弊害がありはしないか、かう云ふ點はどう云ふやうに考へて居るか、と云ふやうな諸君の中に種々様々の議論やら反對やらが起つて來るかも知

れぬと思ひます。これに就ては詳しく私の精神を申上げたいですけれども、時間が無い譯である、またその幾分は女子教育談の中にも現はれて居る譯でありますからして、これは畧しをして、この女子大學校と云ふものが何故に今日起らんければならぬ必要があるかと云ふ、その理由の二三を述べて置く事に致したいと考へます。

工商業の爲にも又軍備の爲にも、或は醫學の爲にも大學校の設がある、陸軍大學校と云ふものは軍備の爲に、我陸軍の爲に欠くべからざる教育機關である。また政事機關の爲めに法科大学が必要である。醫科大學と云ふものは我國民の健

康を保ちて行く上に於て一日も忽せに出来ないものであ
ると云ふ事は明らかに分つて居る事でございませす加之今
日は染物屋の爲めにも、大工の爲めにも、土方の爲めにも大
學校が要ると云ふやうな有様になつて居る。それどころで
はない、これまでは役に立たない者として棄て居つた所
の白痴の爲めにも、馬鹿の爲めにも、盲目の爲めにも、或は
の爲めにも、大學校が要るやうになつて来て居る。このどろ
亞米利加に於て、聾で盲目で見ることが出来ぬことも言
ふとも出来ぬ所の娘が段々教育を受けて彼の名高スタン
・ヴァード大學に入學した者がある、私が視察中にもその

盲聾學校に行きましてその發達の有様を見て驚いた、即ち
白痴教育物を言ふ事も出来ぬ物を辨へることも出来ぬ、數
を算へる事も知らないその馬鹿に教育を施して段々社會
の有害を除くのみならず、幾分か社會へ益を興へるやうに
人間を捧らへ直すことが出来る、實に教育の力と云ふもの
は恐るべきものであると云ふことは、この白痴院へ行き、或
は盲聾院へ行くと云ふと深く感ずるのでございませす、然る
に獨り女子の爲めに大學校と云ふやうなる機關は不必要
であると云ふものがある、また女子教育は必要であると認
めて居るものは無論多くあるのであるが、併しこの女子教

育はど六ヶ敷いものはない、困難なるものはない弊害の起り易いものはない、然るに何故にこの困難なる女子教育の爲めに大學校を建てその發達を促す必要はないか。大學校と云ふものは總ての機關を學理的に研究して、根本的に發達を遂げさせると云ふ機關である如何なる機關を發達せしめんと致し、ましても、どうしても學理に據らんければ本當の發達を遂げしむる事は出來ないと云ふ有様に今日はなつて居る。それで私は今日我日本帝國の爲めに、日本女子大學校を起して總ての機關の根本を養成したいと考へて居ります。私が私の大學校と云ふ意味には二通りあります。

第一は高等普通教育、第二は専門高等教育である。高等普通教育は人間を作るに缺くべからざる機關であり、高等専門教育は専門家を養ふに缺くべからざる機關であります。今後我日本帝國の婦人は如何に教育すべきであるか、如何に養育すべきであるか、かならずや圓滿なる人と爲さんければならない。優美淑徳を備へて居るところの婦人と爲さなければならぬ。智慧に兼ぬるに健康を以てして居るところの國民を養成せなければならぬ。即ちこの人間を作るに、婦人を作るに、國民を造るに、高等普通教育が必要である。また女子は藝能を要しますからして、高等専門教

育が必要であります。勿論高等教育と云ふにも、女子に對して高等と云ふのであります。又女子の簡易専門教育に對して云ふのであります。故に勿論其時代の女子に適當の高等専門教育と云ふ意味であります。それで私は今日高等普通教育の必要も論ずべきでございませうが餘り長くなりませうから畧します。併し東京には女子高等師範學校があり、また諸方に高等女學校と云ふやうな備へもあるのに、その上に斯云ふ女子大學校と云ふやうなる學校を起す必要は如何なる所に在るかと云ふ理由を少しく述べて終りたいと考へます。

(第一)今日の女子教育は器械的或は實用的になつて居る。職業的になつて居る。然らざれば遊戯的になつて居る。父兄が自分の子女を學校へ送るのに、何か教育をして置いたならば、自活の途を得るであらうと考へて居る。然らざれば慰み半分に勉強をさせて居ると云ふ有様である。それゆへに器械的にあらざれば職業的である。または遊戯的であつて國家に最も必要なる人間を造り、圓滿なる女子を造ると云ふ教育が欠けて居るのである。即ち是等の欠乏を充さんが爲めに斯の如き女子大學校を要する譯であらうと思ひます。

(第二)は今日の女子教育にて弊害が多い、どうも學問をさせると生意氣になつて、女らしい所を欠くやうになると云ふのが一つの弊害である。もう一つの弊害は學校へ進ると云ふと世間のことに疎くなる。家庭の風に適しないやうになる。家風と云ふものに遠ざかつて来る。實際に役に立たないやうになると云ふ事であり、是等は實際女子教育の中に現はれて居るところの弊害であつて、これを打ち消す事は出来ないのであります。然るに高等教育を授けると云ふことになる。その弊を一層烈しくするではないかと云ふ議論が起ります。それを、それは教育と云ふことを知らぬ

人の考へである。教育と云ふものはさう云ふ不謙遜な傲慢なる所を去り、又は悪徳である。凡ての汚れたる點を取除いて純粹にするのが即ち教育である。教育と云ふものは種々様々に交つて居る金屬を熱火の中へ入れて純金に仕直す所の方法手段でございませう。これは實際に於て現はれて居る所の現象である。今日世界各國を歩いて見まして、多くの人に面會をし、交際をして見まして、實にどうも深切である。どうも謙遜である、どうも善い人であると云ふて賞められる人は如何なる人であるか、高等教育を受け、教育を全たうして居るところの男女でございませう、それで今日の女子に

ある悪弊と云ふものは教育を興へてこれを矯正するより他に方法はないのである、また今日家政に疎いやうになると云ふのは、社會にも一つの弊がございまするが一方から云へばその重なるものは寄宿舎である、寄宿舎の制が悪いのである、もう一つは我國の家庭が悪い爲めに教育が出来ぬ、今日世の中に何所か善い處があれば自分の女子の教育を托したいと云ふて居る人が澤山ある、この頃東京の有名人なる教育家の中に、さう云ふ學校が出来たならば、假令其學校が九州の端に置かれやうが、北海道の端に設けられやうが、私の娘を托したいと云ふて居る人がある、どうも今日の

寄宿舎制度が不完全であるから茲に一つの模範的學校を設立して、立派な家庭の風を造り、實に善良なる家庭の風と精神とを注入しやうと云ふ必要があるからして、今回金を入れ完美なる理想的の寄宿舎を設けた所の一大學校を起さうと云ふ必要が生じて來た譯でございます。

(第三)は今日の女子教育の缺點は女教員がないと云ふことである、實に模範の婦人がない善い母親となるやうな者がないと云ふことである、この頃私は學校の爲めに善い人を集めて、第一に善い舎監を得たいと思ひまして、彼方此方捜して種々な婦人に交際して見ましたが、賢婦は何れに在る

かと云ふて嘆息したことが屢々ある。この頃この女子大
 校を起すに付て熱心に賛成して、大いに骨を折つて居られ
 る一人が、永く自分の子息の爲めに善い嫁を欲しいと思ふ
 て、需めて見なければいけません。どうも賢母良妻はないと云ふて大
 いに嘆息し、これではいかなない、どうしても女子大學校を起
 さんければならないと云ふ感じを起されたと云ふことで
 ございます。

(第四)は音楽と云ものはこの社會の腐敗を一洗する爲めに
 必要である。家庭教育を助ける爲めに欠くべからざるもの
 である。然るに我日本の音楽と云ふものは實に不完全であ

る我國で一番發達をしないものは音楽でございます。特に
 婦人に大切なる音楽が一番發達をして居らない。又改良す
 べき點が種々ある。この頃音楽専門家の言葉を聞きますと
 我日本は音楽に於ては彼の支那よりも、印度よりも、亞弗利
 加よりも、劣つて居る。これを歐米各國に比較して見たなら
 ば百年は遅れて居ると云ふ事でありませぬ。併し今日我國
 に於て音楽を發達せしむると云ふことは非常に骨の折れ
 ることで、學理的にやらなければならぬ。學問的に根本から
 やつて來んければ國民の道徳心を直し、或は家庭の有様を
 善くし、其他種々の教育を全たうするやうな音楽は發達し

ないのであります。故に我帝國にかう云ふ音楽、即ち音楽部を有する所の完全なる大學校を起さんければならぬと云ふ必要があります。

(第五)は我國の教育の中で一番後れを取つて居るものは體育である。勿論精神的の教育もさうでございませうが、體育は殊に後れて居る。一番研究の出来て居らないものは體育である。成程總ての小學校にも大學校にも體操と云ふものはある。これは如何なる體操であるか、唯各國でかう云ふ事をやつて居るからして、おれもやらうと云ふ事であるけれども、學理的に研究をしたのではないのである。それで今日の

大學校でも男子の學校でも、一つの欠點は即ち學生の身體がわるい、身體を弱くして居る、發達を妨げて居る、このことはこのごろ文部省で調べられたところの統計が証明をして居る。歐米に於ても一時學問の爲めに身體をわるくしたと云ふ時代が在つたでございませうけれども、今日亞米利加などの女子大學校、その他男子大學校の統計は何を表はして居るか、大學校へ這入りましてから卒業するまでに身體の機關が大變に進歩して居る、またその學校へ這入りましてところの女生は、學校へ這入らないところの女生よりは、身體が宜くなつて居る。これは彼の國の大學校から出て居

るところの統計表に現はれて居る尤も一年の統計表を示すのみならず、毎週間統計を取つてやつて居るので、これはどう云ふものであるか、その基は何處に在るか、と云ふと體育學科と云ふものが盛んに行はれて居るです。それに付ては、獨逸には獨逸體操と云ふものがある、瑞典には瑞典システムと云ふ體操がある、亞米利加には亞米利加の體操がある。この體操の術と云ふものは百年の星霜を経て遂に今日に至つたのでございませう。加之一般男子にも女子にも醫學と云ふ智識が注入されて居りますからして、この醫學と云ふ智識が大いに國民を發達せしめる、大いに身體を發

達せしめて居る。然るに我國に於ては體育學と云ふものは一向研究されて居らない、今日の體操と云ふものは學理に適して居らない、學理に據つて方針を定めて居らない、多くは各國に行はれて居るところの有様を真似てやると云ふ有様であるからして、これではいかなない、矢張りこの身體を善くするには體育學と云ふところの學問が必要である、これが爲めに矢張大學校が要る。亞米利加の大學校には必ず體育部がある、また體育學校、或は體育大學校と云ふても宜いやうな學校もある。それ故に今日我國に於きましては、學理を研究して根本的から改革をせんければならないと云

ふ必要がございます。が、今日の女學校には醫學を心得て本當に體育の分る教師は一人も居らぬ。今日は學校に於て醫學や生理學其他衛生學の精神を吹込むと云ふことは大いに怠つて居るで、私はどうしても日本の女子學校の爲めに茲に體育學を學んで少しく醫學や生理や心理や教育學が分つて居るところの體育教師を養成して各地の女學校へ派出し、大いに女子の體育を起さんければならないと云ふ必要が迫つて居ると云ふことを感じます。故に將に起らんとする大學校には體育部を設けたいと云ふ精神でございます。

(第六)にはその他衣類の爲めにも家屋の爲めにも、毎日我々が喰べて居るところの料理の爲めにも、或は庭園の爲めにも大學校が必要である。育児の爲めにも必要である。今日我國に幼稚園と云ふものがございますが、この幼稚園の欠點は何處に在るか随分總てのことが完備して居ります。けれども唯一點缺けて居るところのものは何か、即ち保母が學理を知らない、唯恩物を與へて居る、運動をさせて居る、さうして何が爲めにその恩物を與へるか、どう云ふわけか、云ふやうな子供を扱はなければならぬと云ふところの學理に至つては保母は知らない、それ故に却て幼稚園には時

と云ふことを明らかに解つて居る。この醫者と云ふものは私共の病氣を癒やす爲めに必要である様に幼稚教育の爲めに學理を辯へたる保母が必要である。

實は今日私の脳髓は大に疲れて居りまして充分に皆さんがかわかりになるやうにお話することは出来ませぬでございます。又一問題について一時間も二時間も掛つて説かんければならぬことを僅か二分か三分で申しましたからして、どうしてもその意を盡くすことは出来ないのです。さいます私に遺憾に考へて居りますが、唯私は今日の我が國家と云ふ事を考へまして、この教育機關の有様を考へま

時害を醸して居るところの弊がある子供を傅する位の事はに學問は要らないやうに思はれますが、決してさうではあいで、す例へば私共が病氣に罹つた時に藥屋へ行て藥を買て來て飲ば治さうなものであるが、さう云ふ譯にはいかない。どうしても醫者に據らんければならない。若し醫者に據らずして唯藥屋へ行つて藥を買ふて來て飲んだならば……劇藥を飲んだならば偶には當ることがあるかも知らぬが先づ多くは害を及ぼして遂に身體を亡ぼすと云ふことが起つて來る醫者と云ふものはその道の學理を善く知つて居るこの藥を與へたならばどう云ふ結果を現はす

してどうしても我日本の爲めに我教育機關の爲めに特に
 女子教育機關の爲めに斯る女子大學校を全國に三箇ばかり
 起すところの必要がありはしないかと思ふのである即
 ち關東に一校關西に一校九州に一校を設け而してこれを
 女子教育の三大中心といたしましてその普及發達を助け
 る必要はないかこれを文部省で直ちに着手すれば宜から
 うと云ふやうな考へも起りませんが前に述べましたやうに
 文部省に於ては小學教員すら二萬人も缺けて居り其他種
 々事情がありまして今日直にこれに着手は出来ないと言
 ふ今日の有様を呈して居るのでございませうから此際我々

國民は奮つて大いに警醒して共同一致してこの女子教育
 の發達を助けると云ふ必要があらうと云ふ考へでこの女
 子大學校の起らん事を希望して居りましたが今や事畧ば
 緒に着きまして貴顯紳士の熱心なる御賛成を得この大阪
 の地に第一に斯の如き女子大學校を設立せんとする運び
 に至りましたことは國家の爲めに誠に賀すべきことであ
 ると信じて居ります。
 私は滿堂諸君の公共心諸君の愛國心諸君の義侠心諸君の
 富の方は能くこの女子大學校を設立せしめ且つ永遠に發
 達せしめ玉ふところの力があると云ふことは信じて疑ひ

ません願くは私共の微衷を洞察されてどうか充分の御費
助を仰ぎたいと切望致します(拍手大喝采)



女子教育談

伯爵 大隈重信

諸君私は神戸の方へ参りまして、今日當府へ歸りましたが
偶然にも此教育に熱心なる當府の有志諸君へ御目に懸つ
て教育上の御話殊に女子教育の御話を致すは甚だ私の悦
ぶ處であります。併しながら随分此教育と云ふことは今成
瀬君の述べられた如く學理……學問……此學術に涉るもの
を、しかも教育學者でない、又女子教育には經驗もない私が
突然此席に向つて意見を述べると云ふことは甚だ大膽な
仕方であります。併し成瀬君の熱心又廣岡夫人或は士

倉君其他當府の有力な熱心な諸君の御勸に缺つて……既に
 數ヶ月以前より女子大學設立のことに力を盡して貰ひた
 い、一臂の力を與へて貰ひたいと云ふことでありまして、多
 少東京に於て勞を執りました且つ三月の末でありました
 が、先刻成瀬君から御話になつた通り、議會開會と同時に帝
 國ホテルに於て、女子教育のことに就て演説をしると云は
 れ、一場の演説を致したことがあります。其時私の女子教育
 に對する大意は述べましたが、併しながら其時も成瀬君か
 ら日本女子教育の大切なることを數千萬言述べられて殆
 んど遺憾がない其他文部大臣或は近衛公爵なども、此女子

教育の事を述べられましたして既に新聞なり又或は成瀬君が
 一の冊子に……小冊子に拵へて滿場諸君へ頒布されたや
 うであるから諸君は多分それにて御承知のことであらう
 と思ひます。
 そこで今改めて女子教育の事を喋々するには及びませぬ
 が幸ひに當府へ來つた爲に今日此會へ出て是非一席の演
 説を致せと云ふことで、東京以來の關係がありませぬから、ど
 うも辭することは出来ぬ、聊か大體に就て簡單なる意見を
 述べやうと存じます。今成瀬君が國家の機關はすべて錯綜
 して成立つて居ると云ふことを述べられたが、實に其通り

で決して國家と云ふものは一つ發達してはいかない五官四肢總ての物が全備して發達して行かなければいけない。則ち陸海軍等のみ發達してはいかない、政治のみ獨り發達すべきものではない、富も智識も道德も、あらゆる機關が完全に發達しなくてはいかまいと云ふ意味を述べられたやうでありました。が、是れはどうも尤もな次第です。凡そ國と云ふものが既に世界の生存競争の衝に立つ以上は、世界の最も進んだ所の國と比較して……果して日本のあらゆる機關が文明を以て稱し、富強を以て稱するところの國と比較的に如何なる地位に在るか、と云ふことを觀察して見ます。

ると道德とか或は其他の一部に於ては随分に……世界に冠たる美質……特有の氣象を備へて居ます。が總てこの學術……學術と云ふ上から觀察を下しますと遺憾ながらどうも、數等下つて居ると思ひます。而して國は何で成立つて居るか、國は何で組立てられて居るか、則ち國民で組立て居る、國民は男子ばかりであるか、さうでない、國民と云ふものには女子も含むで居る、若し國民は男子ばかりでありとすれば、日本は四千萬の大國であると云ふても、此中より女子を除けば僅かに二千萬人の國民となつてしまひます。國家を共に組立て、居る處の女子を何故に國民に見ない

か、そう云ふ國は文明國にはないのである、今日女子を國民として見ない國の運命はどういふ地位に陥つて居るか、試みに世界の歴史を御覽なさい、土耳其波斯、印度支那近くは朝鮮其他亞非利加の回々教の行はれる國々は恐らく女子を國民として見て居ないのである、遅しきに至りては女子を一の財産と見て居り、牛か馬を飼つて居るやうに思ふて居る、さういふ國は今日どういふ運命に陥つて居るか、實に隣れむべきである、已に天罰を蒙つて殆んど衰頽してしまつた國もあれば、又今將さに亡びんとして居る國もある、之を見ると實に恐るべき事である、幸に日本は古より斯くの

如き陋習はなかつた、中々日本の男女の間夫婦の間と云ふものは土耳其、印度、支那などゝは大に違つて居る、我日本の開闢の歴史に於ても夫婦……男女の間と云ふものは彼の國々とは大に相違して所謂男女を以て同體に立てゝ居る、夫れから女子と云ふものを一室に閉籠てあると云ふやうなことはしなかつた、中々女子は自由である、此中に封建時代の事を御存の御方もありませうが、大層違ふて居ります、然るに一步踏み出して朝鮮や支那へ行けば中々容易に女子を見ることは出来ない、大抵一室に閉じられて居るのである、そこで私は成瀬君の……此國の機關が完全に……

滿に發達をしないでばならぬと云ふことに深く同意を表
 する。然るに明治維新以來未だ時が浅い國を開いて世界の
 競争場裡に一步踏出すや否や實に爲すべき事改革すべき
 事動むべきことが指を屈するに暇ない先づ第一にどう云
 ふ事をやつたか、一番初には政治……政治が一番初めであ
 った續いて起つた問題は何であるか、軍備であるそこで先
 づ今日では制度文物恐らく世界に於て最も優等なり文明
 なりと云ふ處の國と大なる違ひはない憲法なり法律なり
 其他行政の組織に至るまで實に完全である。
 それから軍備……軍備は歐羅巴に比較して劣ると云ふ成

漸君の御議論もあつたやうだが君は教育家であるから其
 邊の事は少し間違つて居られるかも知れない兵力と云ふ
 ものは隣國に相對する比較から起るもので吾が國には其
 様に澤山の兵は要らない又世界に大なる敵はないのであ
 る、此時に當つて五十萬の兵二十萬噸の艦と云ふものは實
 に強ひ方である英國の今の軍備は甚だ危ひ如何となれば
 全世界に領地を持つて世界を皆敵として居る其英國の方
 より見れば我國は數倍の力を持つて居る日本の方が遙か
 に優つて居ると謂てもよい殊に此大阪に商工業の最も盛
 んなる都府……殆んど日本中心の大都府でありまして實

に此商工業の發達就中近年に至つて勃然と起つたので其聲は全世界に響ひて居る、夫故に或國の如き恐怖心……嫉妬心を起すやうになつた、亞米利加の關稅問題の如きは多少其恐怖心の一部かも知れない、それから富も相當に發達して來た、總て國民の氣象も大膽になつてきた、試みに十年乃至二十年前と比較して見たならば今日の富は餘程盛んになつて居る、十年乃至二十年前には十萬の富と云へば餘程大きかつたが、今日は左程でもない、さう云ふ譯で總て此國の必要……國の急務と云ふ方から充たされて、此三十年間實に錯綜したる封建制度を破つて全く中央集權……中

央に權力を統べて、政權から財源を治り而して種々の法律制度を改正して陸海軍の力を養ひ又四十年以來實に不正不利なる條約の爲めに苦められて居つた、其條約を改正し而して我國民は是まで退いて……内に閉塞して居つた其人心を今日外に向つて用ゆると云ふやうになつた事に就ては實に今日までの政治を執る人も亦國民も忍んで茲に至つたのは随分驚くべき進歩と云はなければならぬ、恐らく世界に比類ない處の進歩と云はなければならぬ、其忙がしい間に相當に教育も發達したのである、教育の必要と云ふ事は早くから感じて居る、就中近來に至つて戰後

の經營を説く者は必ず教育の必要を云ふが併し口で云ふは必ず事實には行かない。先づ水害が起れば山林の保護が行届かないからた所謂教育が必要であると云ふ處が充分に行かぬ、何故行かないかと云ふと山林の保護所謂教育をしても目前に其効が現はれぬ、目前に利が現はれぬ其利害……結果は數十年の後に現はれる。夫故にツヒ怠る國家百年の大計であるのに目前に効が見ぬないから、ツヒ怠る私は三日前に東京から來たが、激車にて江州へ這入つて左右の山を見れば實に荒涼たる元山である。砂山である。それから諸方で、昨年の洪水の爲め堤防を決潰して一面に砂で埋ま

つて居る處を見た。又昨日何處であつたか大阪と神戸の間でありましたが、堤防が切れて、どうも數百町の地面が砂の爲めに没せられて居つた。而して遙かの山を望んで見ると、皆元山か砂山である。何故にあつたか云ふ元山や砂山が出來たかどうしても木が植はらぬか、さうでは無い之れは常に山や川に教育を興へないからである。不取締であるからである。常に教育をせず、其取締をしなければ其通りである。就中人の教育は斯る有様では堪まるものではない、人の教育も山や川の教育の如くに幾らか怠つて居るに相違ない併ししながら日本は……日本國民はどれほど發達したかと

云ふ事を自から覺る程に至つた。日本は農業國より工業國に進んだが、今又將に商工業國に進まんとすることを自覺することが最も大切である。之を自覺した以上は、どうであるかと云へば、國民は則ち大國民である、而して之を世界の國民と比較して見ると、日本の國民は如何就中女子の教育は如何と云ふことに思ひ至つたならば、實に遺憾な譯である。そうして此女子教育と云ふ事かどういふ力を持つと云ふ事はもう喋々申す迄もない。先刻成瀬君の御話があつた。

それから私は此教育を學理上からは述べませぬが、唯私の

常識から考へますと、國は進歩しつゝある國は進歩しつゝあるのに、我國民の體力と云ふものはどう云ふ有様であるかと云へば、私は、私はどうも餘り國民の體力が進歩しつゝあるとは考へぬのである。此封建制度の滅亡より以來、隨分、剣術や柔術が退々すたつて居る。それから一時、風俗の破壊よりは、随分世の人が驕奢淫逸に耽けると云ふ如き事が行はれたが、これはどうも革命の末には何處の國にも避くべからざることである。彼の封建政治が廢されて、立憲政治に變はつたと云ふ事は、日本の歴史に於て最も大きな出来事である。さう云ふ出来事の後には、何處の國でも驕奢淫逸に

耽ると云ふやうなことが起る。それ故にどうかすると國民の體力が弱くなつて居るかも知れぬ。體力が弱くなつて居るとすれば、目前には來らないが、我々の子孫の時代に至つて遂に生存競争の爲めに亡びてしまふと云ふやうな運命に陥るかもしれない。諸君は日夜考を凝らして金を儲けんとして居るは何の爲めであるか。現在自分の肉體の慾の爲めに使つてしまはふと云ふのではない、子孫の爲めに遣して置かうと云ふのであらふ、或は種々の公けの事業の爲めに使はふと云ふのであらふ、また家庭庭園を立派にするとか、或は飲食を己れの意の如くにするとか、即ち生活の度を高

めて行く、かう云ふことは尤も必要である。その生活の度を高めて行くと全時に資産を増して子孫に傳へやうと云ふことは人類に最も大切な事である所が、體育其他教育を怠つたならば子孫はどう云ふ運命にゐるか、實に憐むべき有様である。

次に風俗の論がある。どうしても風俗の基は夫婦である、社會の基も夫婦である。申すまでもない夫婦があつて始めて親子が在る、それから親戚や朋友が出來て社會が成立つのである。その夫婦は何にから成立つかと云へば、則ち男女です、而してその男女の基は矢張り女子である、その女子に

して教育もなく體力も弱く、且小學校へ這入つて十五六歳に卒業する、それから直ちに早婚をやる、さうして子が生れたならば、その不充分なる女子が育児を爲し、且家庭のことを仕なくてはならぬ、どうも實に危い話して、段々子供は不可かくなる、従つて體力が弱つて来る、商業家でも大きな店で澤山な番頭丁稚を使つて居らつしやる家は、いざ知らず、普通働く人はどうであるかと云ふと、何でも男子は外に向つて働く、女子は家に居つて家庭の教育から店の番から日用の帳面を付ける事まで皆しなくてはならぬ、然るにどうも我國ではこれまで女子教育と云ふことを怠つたに相違な

い、恰も彼の禿山や砂山と全一であらうと思ふ。これでは國民の道徳も風俗も進めやうがない、實にこの家庭教育を誤り、若しも夫婦の間が不和であれば、その中に出来る子は、何としても宜い子は出来ないのである。そこで子が大きくなつて如何なるか、悪い事をする、今監獄に囚徒が幾くら在るか、殆んど今日の軍隊の數ほど囚徒が在る。この悪人を如何して社會が製造したかと云ふことは注意しなければならぬ。茲に於て愈教育の必要が起る併し一般の教育と云ふことは私の問題でない。その中の女子教育に付て申すのであります。

扱てこの女子大學校の設立のことに付ては私も最初は實に大膽な事と思ひましたが、數回辨論の後段々その不審の點も解つて參り、今直ちに設立することは出來ないでも、この女子教育就中高等教育の目的とその手段とに於ては成瀬君の説に大に全意を表した爲めにこの女子大學を熱心に賛成致して私は教育家でないにも不拘幾分か私の微力を注いで、大阪に學校が立つのであるから東京の人は多少冷淡であらうが、東京の人にも充分に熱心補助するやうに、この大學にどうか力を分つやうにと勸められた譯であります。それで随分これは容易ならぬことです、而して斯の如き必

要なる學校ならば何故政府で立てぬかと云ふ人が在るかも知れぬが政府では今日爲すべき事が中々多い、錯綜したことが多し、教育にも相當の力を入れて居られるけれども、今直ちに成瀬君の目的のものを政府で設立することが出来るや否や、これは随分疑問である、これに就ては文部大臣も大いに全意されて發起人の一人となられて居る譯である、金錢のことは議會の協賛を経ざれば何共斷言は出來ない、いけれ共向後相當の保護は與へられるに違ひない、どうも急に政府でこれを立てると云ふことは望まぬであらう。然るに幸ひにもこれに最も熱心なる成瀬君の如き人が起

つて有力なる人々の助けを得られたと云ふものは我日本
の女子教育の爲めに……國家の爲めに實に幸ひなること
で特にこの大阪府の御方は大に企意されてこれに力を致
たされるであらうと信じます(拍手大喝采)



女子教育談

伯爵土方久元

諸君私しは此度當地方へ公務の爲めに参ひりました處本
日此會を開くに就て臨席をして呉れと云ふことで出まし
たです素よりこれ迄教育の事には一向關係を致したことも
もなく誠に淺學な譯ではございませぬけれども此企には
甚だ賛成を致す次第でござりまするで、需に應じて聊か私
の見聞した處の事を御話致さうと考へます。
一體この教育上の事、又學理上の事に就ては中々一朝一夕
に申しつくす譯なものではありませんせぬが、この大學校を設

立せられると云ふ事に就てはこれまで東京でも段々諸君の演説があり、而して冊子に詳しく載つて居るから最早さう云ふ事は反復して申す必要はあるまいと考へる。併しなから極く單純に私の考を申します。此女子教育と云ふ事に就ては、何分家庭教育より他に緊要なものはないと考へる。學校へ入れた處が、僅かな時間の事で學校から歸つて家に居る方が餘程多い。家庭の教育が能く整はねば到底本當の事は出来ない。それから又男でも女でも、小供の情と云ふものは、我母程慈愛な者はない。我母ほど親切な者はない。又我母ほど智慧のある者はないと心得て居るやうな有様で

あるから、其母が然るべき人であつて、能く教育を致しますれば、子たるものは誠に純良な善い人間になつてまいりませう。處が小供にさういふ情があつても、其母たる者が無學文盲にして、小供が學校から物を辨へてきて、母の云ふ事は間違つた事であると云ふやうな有様になれば、既に其小供から悔りを受けるので、母を尊信して一概に其教育に従つて行く譯にはいかなないやうな譯である。男子は外に向つて働くもので、事が多いから子供の教育に専ら力を盡すと云ふ事は出来ない。夫故に其母となる處の女子教育と云ふものが甚だ大切である。

そこで私が歐羅巴へ参つて居つた時に見聞した處のものを御話をするが、彼の獨逸の「ウキルヘルム」皇帝が政を執つて居らつしやつたが、あれ丈の戦勝國で、ピスマーク侯が之を補佐し、軍事の方はモルトケ將軍が司つて、實に見た處は軍事の方から云ふても、學問上から云ふても、工業上から云ふても、商業上から云ふても、醫術上から云ふても、何から何まで、申分なく整頓をして居る筈だ羨ましい事と考へる、そこで、女子の教育がどう云う風になつて居るか、と段々承まわつて見ますと、女子ばかりではない、男子でも十五六歳までは學校から歸つて來ると母の膝元で復修をする、又その質問

に答へて母から教導をして遣ると云ふ事に、其國一般が必ずそう云ふ有様になつて居ると云ふ事であつた。先づ何事でも一體に連續して進まねばならぬとは云ふものゝ、其一番原素と云ふものは教育より他にはない。人間が馬鹿で智慧がないと云ふ事になると、軍事も工業も商業も何一つ出來る氣遣ひはない。つまり國民一般の教育が進んで、即ち文明國となるのである。又強國とも云はれる譯なものでありますから、是非女子の教育と云ふものは、殊に大切なるものである。又男でありますると、笈を負ふて歐羅巴なり、亞米利加なり、隨分遠方の國へ出て學問をすることが出來るけれど

も女で見ればさう云ふ譯には行かない。夫れ故に是非近い處に學校を設けて教育するのが一番益を得ます。それから又今日當府の有様を見ますると今大隈閣下の御話もあつた通り、實に非常な發達である。商業から云ふても、工業から云ふても、どうも實業の發達富の増加と云ふものは非常なものと考えへる。それで三府の中の即ち一の都會であつて、最も財源がまさつて居る、斯る當府の事でありませうから、此度有志の方々が進んで當地に女子大學を起すと云ふことは誠に此大阪の地位に對しても甚だ慥ふべきこと、内地の方から云ふても、外國に對しても甚だ名譽なる事柄

あらうと考へる。

次に諸君の御參考に御話を致して置かうと思ふことは、丁度明治廿一年に東京に於て女子教育獎勵會と云ふものを設立して、私が其創立委員長を致した事がある。其際は、今や近日に條約改正も出來上る、さうすれば雜居になる、雜居になると云ふことになつて見れば、段々外國からも入込んでくる、さうした時に日本の女が皆無學にして、今迄のやうな引込手段で居るやうではならぬから、速成の教育を與へねばなるまい、これは唯子供を教へやうと云ふ方よりは、上は皇族の息所から總ての貴族なり官員なり、重立た處の細君

や何にかに善く其心得をさせたが宜からうと云ふので、英國から女教師を五人雇ふて、さうして其學校を起す事に致した。それに就て華族や官吏の方は別に會議をし、夫れから商業家や工業家の人は別に會議を開ひて、勞力を以て此會に盡さうと云ふ人は勞力を以てし、又財産の豊かな人は財産を以て助け合ふと云ふことになりました。一日紳商紳士の人を集めて相談を致した、其時分に濫濼榮一——この人はやはり委員の一人であつた、彼れ此れ參ひつた者は三四十人もありましたらうが、濫濼が云ふには斯ふして此學校を設立すると云ふた處で、先立つものは即ち金で、金がなければ

はいかぬ先づ其寄附金を一つ定めて貰はねばならぬ、さうして學校を立てるには永續をする様に豫算を立てねばならぬ、其事を今日定めたい、異論ない事なれば寄附金の話も纏めたいと考へる、就ては私しから少し出過ぎる様ではあるけれども遠慮して居つてはどうか、第一私は是れ丈け、諸君はどれ丈け御出金下されと申事を假に定て申上げましよ、差し出た致し方で自方はまらつと多分に下さうと思食御方があるうかも知れず、失禮に當りますけれども見込み丈け申ますと云ふて、鉛筆を以て姓名の上へ書き付け若し御異存の有る御方は重て御相談致すであ

らふと申して、さこで第一番の筆頭になつて居つたのは岩崎……岩崎は其日事故あつて不参をして居つた所が川田小一郎が参つて居つて岩崎は今日事故あつて参いらぬ私しに承まはつて来て呉れと云ふ事で御座いましたから私が承つて歸りましやうが、夫ぢやあ岩崎はどれ文けの金額を出して宜う御座いましやうと云ふと濫澤が、どうぞ岩崎は八千圓丈け御出し下さい、川田はそうで御座いますか夫れ位の事なれば岩崎に申す程の事は御座いません私しが御受を致します、承知を致しましたと申て此れ位の事ならさう仰々しく人を集める程には及ばぬと云ふ様な顔付し

て居りましたる故に忽ち其後へ誰れは何千圓誰れは何百圓と云ふて一日の間に相談が纏つてしまつて、大變好い結果を得ました、現に私は其事に興つて致した事で御座います、今日當府では財産の多い方ばかり寄つてなざる事で御座るから、愈々女子教育を必要と見做す以上は躊躇なく其邊の御協議も早々纏るやうになされた方が宜からうと考へる併しながら、此教育と云ふものは中々十年や十五年で結果の見ゆるものではない、丁度今大隈さんから山の荒れた御話も御座いました、山が荒れたと云ふと直に木を植た處が中々十年や廿年で夫れ丈けの結果が見ゆるも

のではな、教育の如きものも餘程年數を積まなければ其結果も見ゆるものでない。一日も早く始めれば夫れ女け早く効を見ると云ふ有様でありますから之れは御参考の爲めに御話を致して置きます。(拍手大喝采)



女子教育談

公爵近衛篤磨

私は今夕此會へ出ると云ふことは實に自から意外でありました。先日御案内がありました時分にも御断りをして置いた次第でありましたが俄に京都まで參る用事が出来まして昨日東京を出發致しました。其事を如何にして承知せられたか、成瀬君より昨朝電報を以て是非今日の此會へ出席をせよと云ふ電報がありました。夫れのみならずまた今朝京都へ着いて見ますると更らに有志の諸君が是非出るやうにと云ふ御案内が再びありましたに就きまして段々の

御厚情でありますからして此の處へ出ました次第です尤もさう云ふ次第でありますからして今日此處へ出て演説をするなどと云ふことの考は毛頭なかつた、これへ參つて見ますると何か一言述べると云ふことでありまして甚だ突然で困ります。併しながらかねてより此企には賛成を表して居る一人でありますからして、御斷をするのも甚だ遺憾でありますから實に出來合の演説であります。すすけれど一言述べやうと思ひます。

既に熱心なる成瀬君の演説があり、又先輩諸君の御演説がありました後で私が下らぬ事を申して蛇足を添へると云

ふことは甚だをこまかしい話でありませすが唯一言述べやうと思ひます。先日東京ホテルに於きまして大隈伯を始め文部大臣等が設立の事に就て御演説があり私も其席末に列なりまして、詰らぬことを一言述べたことがありました、其時には私は近來學習院といふ學校に従事して居りまするので、其經驗の上から女子教育の必要であると云ふ事を述べました、即ち小さい冊子の中にも載つて居ります。學習院といふ學校は男子の學校でありまして、少しも女子の教育には關係がない學校でありますが、あの學校に従事しまして後に大に家庭教育の必要であるといふ事を實際

上に認めたことがありまして、其事を御話致したのであります。併しながら、家庭教育の必要であることを云ふ事に就きましては、先刻來成瀬君も御話しがありました。又只今土方伯爵の御話もありましたから、其必要に就きましては、今更ら述べる必要はなからうと思ひます。それで今晚は唯此女子大學の企に賛成をすると云ふことに就きましての理由即ち家庭教育の必要と云ふ點から考へたのでなく、其外の點から考へた事を少し御話申したいと考へます。

近頃或る私の友人が、日本の維新前の有様を譬へて話したことがあります。それは日本の維新前は殆んど雁の翼を切

つて池に放したと同じことであつて、今日其雁を池から取上げて海に放して見ても飛ぶことが出来ぬ、それと同じ有様に日本はなつて居るといふとを譬へて話しました事がありました。が、それは日本の事物全體の上からさういふ喩を取ると云ふことは少し酷評であらうと思ひます。併しながら女子の教育を云ふ場合は、此評が最も善く當筈なると思ふ。日本の女と云ふものは殆んど維新前の有様に於まれば、翼を切られた雁と同じ事である。而して此御維新後になりましてから、其翼を切られた處の雁が池を飛出して見たところ、で立上ることが出来ぬ。今は海の上をうらく浮

んで居るといふやうな姿に過ぎない。この海の上に浮んで飛ぶことを知らない雁と云ふものが漸次翼を伸して立つまでには多少時日を要するに違ひないでありませう。併しながら翼が揃つてからでも飛ぶ事を習ふまでには多少の時日を要するのでありますからして、若しも其雁なるものをして、本當に立上るやうにして遣らうと思へば、夫れ丈けの人間に親切心があるならば、少く宛手傳ふて翼の伸るに従つて、追々に立上るやうな鹽梅にしてやると云ふことが、或は大なる効を奏するかも知らぬ。日本の此女子教育の如きも、今日唯勝手に小説を讀むとか、或は詩文を讀むとか云

ふ儘に打任して置いたならば、成程文字を覺る事物は多少覺へて行くには違ひあるまいけれども、其覺るた處のものが果して中天に翔上る丈けの立派なことを覺へるのであるうか、如何であるうかと云ふことが甚だ疑はしいのであります。それで此際どうしても此女子教育と云ふものに力を入れて、其翼の充分に生へ揃はないうちから追々と立上るところの稽古をさして遣ると云ふ事にしなければならぬ。即ち今日の女子教育の必要なることは其處にあるうと思ふ。然らば維新前には女子の教育と云ふものはなかつたかと云へば決してないことはなかつたので、必ず書物を讀み、

或は立派に字を書き、歌も詠むといふやうなことがあるつたに相違ないのであります。けれども其の教育の仕方と云ふものは唯多少物事を覺えるに云ふに止まるのであつて、一向其學問と云ふものを働らかして行くと云ふことはなかつた支那人の云ふた詞にも、男子有徳便是才、女子莫才便是徳と云ふやうなことを云つた人もあるやうであります。殆んど才のないのを女子の美德として居ると云ふやうな傾きがあつた是れは随分極端の話であらうかとも思ひます。傾るけれども併しながらさういふ傾があつた世には少し女子が物事を覺へると生意氣だとか、出しや張るとか申しませ

するが、成程さういふ事は甚だ面白くない、勿論婦人の美德といふものは備はなければならぬのであります。唯此れ迄の如く女子と云ふものが卑屈に流れて愚圖くと唯家の内に何事もすると云ふことなしに居るといふやうな有り様では到底前にも段々御話がありました通り家庭の教育と云ふ上から云ひましても、或は又其夫たる人が政治家であらうとも、或は實業家であらうとも、或は學者であらうとも、夫等の人が婦人の内助を藉りて其効を奏すると云ふことは甚だむつかしい事であらうと思ひます。歐羅巴の例などを澤山引ひて御話する事は甚だ煩はしい事であるから

申しませぬが、随分立派な事業を爲しとげた人は其夫人の
助を籍で、夫人の助けを籍りた譯ではありませぬいけれ
ども、夫人に教育がありて、其夫を助ける丈けの才力を夫の
方に利用して其仕事を成し遂げたと云ふ事は随分例の多
い事でありませぬ。果して今日の日本の女子はさういふ有様
になつて居るかと思へば殆んどさういふ婦人はないと
いふても宜からうと思ひます。斯ふ云ふ譯でありますから
女子教育を發達せしめねばならぬと云ふ最も必要の點で
あらうふかと思ひます。

甚だ突然の演説でありまして前後揃はぬことであります
るけれど、先日は家庭の教育と云ふ上から學習院に於け
る實驗談を東京に於て御話をしました。が、今晚は其外の點
から女子大學の設立と云ふ事に就きまして贊成する意を
一言茲に述べて置きませぬ。甚だ未熟なる演説でありまし
た。(拍手大喝采)



實驗談

伯爵板垣退助

成瀬仁藏君は夙に女子教育に志し習て久しく内地に在て
 斯業に従事し、經驗既に乏しからず。尙ほ遠く海外に遊んで
 其事を研究し、歸朝の後女子大學の設立を計畫し君の銳意
 熱心は大に一世を感動し、廣く有志の贊襄を得て其業の緒
 に就きたるに由り大阪に於て之が發表の式を擧んとす。君
 は即ち余に贈るに女子教育談と題せる小冊子を以てし、贊
 成の辭を述べんことを囑せらる。受けて而して之を讀むに朝
 野諸名家の演說筆記にして女子高等教育の必要は之を論

ヒ盡して遺す所なく復余が歸を須ひすと雖茲に聊か余が
 實驗に於ける所感を述べ以て其責を塞ぐのみ夫れ動物の
 生存するや消耗と衛養と相待ち茲に動く所あれば則ち息
 ふ所なかる可らず人間に於けるも亦た然り蓋は戸外に出
 で、動き夜は室内に歸りて息ふ即ち男子は外に出で、心
 身を勞し女子は内に在て家事を治む若し良妻にして能く
 家政を整理し眷族相親みて一家和合し團樂の樂を享くる
 あれば戸外終日の勞苦も忽ち之を忘れて蘇生の想あらし
 め、乃ち其外に消耗せし所の氣力は之を内に衛養するを得
 るなり又た男子は外に在て繁劇なる事物に接し熱情の爲

めに動かされ過を爲すの事あるも女子は内に在て周到な
 る思慮を運らし世間物情の爲めに激せらるゝ事少ければ
 男子の過を救ふことを得るなり又た男子は外に在て業務
 に執筆し一家の内を顧みるに暇あらず兒童の教育其他の
 事に於て内顧の類なく其志業を世に立ることを得るは妻
 女の能く内を治むるに頼るなり又た男子が一朝の怒に其
 身を忘れて短慮の舉動あれば能く之を抑制し或は大事の
 爲め外に身を處するに臨み能く之を奨揚するあれば毫も
 後へに顧る所なく屏く志を決するを得へし是れ皆妻女が
 内に在て能く之を勤むるに依るなり又た人の妻たる者が

一朝良人を喪ふて家貧しければ自ら男子の業を執て家政を整理し子孫を教育して家名を失墜せざるを得へし若し其家富んで資産あれば奸邪の徒之に乗ずる者あるも能く之を防制して遺産を護し幼兒を育して子孫の繁榮を致すを得へし夫れ斯の如く男子が社會國家の爲めに志を行ひ業を成し尙ほ死後に至り遺恨なからしむるに於て妻女の智徳は與りて大に方ありとす而して其智徳たるや唯だ能く教育の養成する所たれば女子高等の教育は以て大に其智徳の度を高め社會の康福を増し國家の隆盛を致すの基礎たるを信ず成瀬君が女子高等の教育の方針は當今女子

教育の弊を矯めて日本婦人たるの特性を養成するに在り。其着眼甚だ好し幸に當局諸君の明察精勵に頼て能く其弊を除き其利を収めて斯業の大成せんことを望むなり(拍手大喝采)



贊 文

男爵 山田 信道

女子の天性たる縝密温雅にして特に慈愛心に富めるは遂
 かに男子に優る所あり故に教育の方針を誤るなく養成
 の方法宜しきを得ば管に室家の整理に裨補あるのみなら
 ず或は社會の公益となり或は風教の淵源となる蓋し疑ふ
 可きに非らず我國慣習の久しき女子の教育は家政上實用
 を奏すれば以て足れりとなし其教育に重きを置かざる耳
 からず或は之を等閑に附するものなきにあらざりしも維
 新學制の制定と共に學齡兒童義務教育の制定せられしを

以て初等教育に在ては漸く普及の實況を呈し、今や殆ど學齡半數の就學者を得るに至れり。然れども願みて高等女子教育の現狀を察すれば、轉々慨嘆に堪へざるものあり。茲に最近の統計を舉ぐれば、全國高等女學校の數は官立及公立九校、私立六校、此十五校にして生徒の總數二千八百九十七人に過ぎず。而して一層程度の高尙にして圓滿完備女子を養成す可き學校に至りては實に全國一も之れあらず。夙に成瀬君の女子大學創立の急務なるを論じ、大に朝野に唱導せらるゝ抑亦故なしとせんや。君曾て米國に遊び女子教育の方針を觀察攻究し、又久しく本邦女學校長の職に在て自

ら其訓育を擔任せらる故に其意見の精確にして時勢に劃切なる某等の喜んで此の舉を贊同せし所以なり。今や議論く熟し機已に迫るを以て茲に本日發起者の總會を開らざる併せて發會式を擧ぐるに至る思ふに事は論議に易く實行に難し。若し夫れ女子教育にして一朝其方針を誤るときは或は社會風教の紊亂を來し、或は國家の衰頹を招く洵に疑を容れず。豈恐れて慎まざるべけんや。希くは今より諸君と共に深く其方法を講究し、反復審按以て遺漏なきを期せん。聊か一言を陳べ、祝辭となす。(拍手大喝采)



女子教育と女教員

男爵 北 畠 治 房

今や教育の必要を説く萬口一音子が喋々を要せず然れど
 も其教育は専ら男子に重きを置くの傾きあり。偶々女學校
 の設けあるも其程度比較的低きを慨む。夫れ良種も美田に
 培養するにあらずんば好果を獲る能はざると一般男女教
 育兩々相須つて始めて其望を達すべし。且教育中最も効驗
 の著しきものは家庭教育にありとは世界の通論なりとす。
 而して其家庭教育の効驗は訓練即躰方に在り。躰方の善悪
 は母親の賢愚明暗に關する所にして國家生存上一日も忽

緒に付すべからざるや論なかるべし。然らば如何にして女子教育の好果を結ぶを得べきや。惟ふに女子の教育は女子を以てするに若くなし何となれば其風習性情共に同じければなり。若し其れ女子の教育を男子に一任せんか其訓化せらるゝ所言語動作より性情に至るまで穩優變じて粗豪となるの誹りを招くは自然の理にして既往の實例亦寡からざるにあらずや。是女子教育は女教師を以てするを良とする所以なり。然り而して今や其女教師の男教師に比して音に乏しきのみならず其學識亦遙に卑下なるに伴ふて風習高雅ならず豈それ良家の女子を托

して安心するを得んや。況んや男教師の薫染を受け穩優の美風欠くるあるに於てをや。是女子大學校を設立して優美の女性に深淵なる智識を注入して以て之を我國一般に普及せざるべからずと希望する所以なりとす。國各特性のあり女教師の學問如何に深淵なるも吾には我國固有の美風良俗のあるあり苟も之に背馳せんか是即外國婦人を養成するものなり豈戒ざるべけんや。然りと雖外交已に開け内地雜居も亦近きに在り女子の勤め圃内に止むべからず。況んや愛兒に向て家庭の教育義務を有すべきものなるに於てをや。蓋余の希望する女徳養成は内外折衷にあらず内

を主とし外を客とし以て内をして外を同化せしめんとす
るに在り、折衷と同化とは大に相似たるが如しと雖實は其
着眼點を異にし從つて其精神は天淵の差あるを信ず是余が
茲に企つる所の女子大學の教育善く國風に調和し萬國に
羨望せらるゝ優美なる女徳を養ふの方針を採るべしと謂
ふ所以なり。

余が女子教育上の所思大凡此如而して余が成瀬仁藏氏の
主唱に依て將に創立せられんとする日本女子大學に熱心
賛意を表したるも亦實に茲に在り、今や日本女子大學將に
大阪の蒼空に聳へんとす、志士仁人殊に大阪人士は宜しく

双手を掲げて之を賛助せられんを信ず、乞ふ本席會同の諸
賢自任して速に告成に力を盡されんことを、拍手大喝采。



女子教育と富國との關係

廣瀬 幸平

今日こんにちは日本にほん女子ぢよし大學だいがく校がうの創立せつりつ披露ひらく會かいを催もよほふさるゝに付つき其その
 主唱しゆちやう者しや成瀬なるせ仁藏にぞう君くん屢しばしば々々私わたくしの處ところへ來きられて、是非ぜいひ一場いちじやうの演説えんげつ
 をなせと依頼いひねがひせられましたが、私わたくしは近來きんらい老衰らうさいして、外ほかに病やまひも
 發はつし、演説えんげつなどの議ぎは御斷ごたんだんりと申まをした處ところ成瀬なるせ君くんの曰いはく、御前ごまへ
 は老人らうじんのことでもあるし、是非ぜいひ何か話まをせと云いふ事ことで止やむを
 得えず、皆みな様の末席まつせきに出いて、一言いちごん申まを上げようし、承諾しやうだく致いたしたこ
 とで御座ござる然しかるに、一昨いつまく日にち來き發病はつびやう致いたし、熱度ねつどが三十八さんじゅうはち九度くど迄まで
 昇のぼる様ようのこと、席せきに臨のぞむことが出來きませぬから、自分じぶんの考かんが

へた所を成瀬君に送申上げて、諸君の御耳に達すること
 致しました。
 既に大隈伯土方伯等の御演説、又は成瀬君の其の主意を説
 明せられたるに付て、至れり盡せりと私に於て承知致しま
 するが聊か私の考へる所もあるから卑見を述べること
 御座る私は常にこの富國論者の一人で御座る。さて女子大
 學校の設立披露會に對して、富國のことを冒頭に掲げて、之
 を申すのは、木に竹を接いだ談の様に御聞き苦しい嫌はあ
 るうが、女子の教育に就ては、大に國を富ますの基となると
 云ふ事を私は信じますから、此の事を申すので、御座る。全

體日本國は武斷國と申してよからうと思ひますと云ふ
 ものは、誰れによりて論ずる所も、強兵即兵を強ふすると云
 ふ事が先に談になつて、富國と云ふ事が後になつて、さうも
 ならぬ。又此の文字の熟字に於ても、讀み起すことによつて、
 古來より強兵富國と云ふことは、順序に違ふて居るから、誰
 れも云はぬことだ。富國の後に強兵と云ふことが、其處へ伴
 ふて出て来る。之を一家の經濟に譬へても、入るを計つて出
 るを制せよと古人も云はれたる如く、即入ると云ふこと
 は、富で出ると云ふことは、云は、強兵に譬へても可ならん
 歟。然るに先年私が歐米に漫遊して歸りましたが、其の途上

アメリカに於きまして、私が新紐州のボキビシーの女子大
學校を見ました、其の廣大なること、女子の學校としては實
に驚くべきものと私は見た。此の學校の入口の玄關に迄、
イルが布ひて、瀛車の通路が付て居る。一つの女子大學校の
爲に一の線路を設けると云ふは誠に驚くべき事である。私
は只外部から觀察せしのみであるが、それでもどの位、亞米
利加人は女子教育に心を用ひて居るか、又何せ亞メリカが
富んで居るかと云ふことが分ります。此の學校の内部の事
は私は知りませぬ、成瀬君から御聽きになれば善く分りま
す。

尚イカカと云ふ處には、男女を一處に教育する大學校があ
る。其處は風景の誠に美しい處で、其傍に細長ひ湖水がありま
す。處が自分は體が悪かつたから、三ヶ月程其處で保養して
居りました。其の湖水の縁に、ケイユウと云ふ處があります。
其處に一つの小さいホテルがあつた。其のホテルの主人と
の談の中に、御前は年中此處に住んで居るやと問ひました。
處此處は涼い處であるから、暑中休暇中、納涼に來ました。處
が此のホテルは貸屋である。旅宿をせうと思ふならば貸し
てやるうと申しました。そこで經濟を取つて考へて見まし
たら、家族一同が残らず働いたら、随分經濟になると思ふて、

斯様に暑中休暇を利用して、避暑旁旅舎商業をして居ると申した處が此の主人と云ふ者はフキラダルフキアの典獄じや、日本ではかゝる役人又は少く位地ある者が斯云ふ商業を営むと云ふことは、未だ習て聞ひたこともなく、實に私に驚き入つたそこで、人民一般が殘らず男女共に打ち揃て、自分も獨立せねばならぬ、國も富まさればならぬと云ふ考でやる様になると、國は屹度富むものじやと考へました。然るに、其旅宿の内に年齢十七八より二十三迄の奇麗な女子數人が給使をして居つたが、其衣服も立派であるし、舉動も卑しからぬから、斯云ふ女子が給使をするかと思つたか

ら、御前達はどう云ふ身柄ぞと尋ねたら、私共は即女學校の生徒で御坐る、高等女學校の生徒もあれば、中學校の生徒も居る、又大學を將に卒業せんとする者もある、暑中休業で此處へ参りましたと云ふも、學費が御座らぬ故、旁學費を蓄へて學問したいと思ふ者で御座ると云ふた、そこで、宰平再び驚きました、日本では男子でも、暑中休暇は勿論、日曜日でも親の金を蒔散らす時と心得て居る、況して婦人の如きは使ふばかりである、婦人が夏期休業を利用して、見ず知らずの人の給使をなし、それで學費を作つて、學問をせうとは、日本人のみならず、東洋人には思ひもよらぬ事じや、そこで私が

この男女共に學問を進めて行かねば國を富ますと云ふ事は到底出来ぬと云ふ感じが起つたから、それで、成瀬君の此の事業に就て即女子教育に就て賛成した譯で御坐る。
そこで女子教育の必要と云ふ者は是非男女が共に學問に進み、雙方相並んで鳥居の兩柱の如くに相立て、しつかり鳥居を支へて居る様にならねばならぬと云ふ次第である。男子のみが學問があつて女子に學問がなかつたら、片跛で鳥居をしつかり支へて行く事が出来ぬ、此の鳥居を兩人が、しつかり支へて居ると、一方では男子が外交やら金儲けの事は皆してくれる。又一方では學問のある女子が家内の經濟や

子供こどもの躰方しづかたや、凡て家政かせいを纏めて安心あんしんの出来る様にやつて行く道理だうりがある。況んや此の學問がくもんのある兩人ふたりの間に出来る子供こどもに於てをや、其子供そのこどもの立派りつぱな者が出来るから、自然しぜんと種がよくなる、とうすると子孫しそんに立派りつぱな苗あひらが生て来る道理だうりだ所謂いふ門地もんちに徳花とくかとはこれだ、古人こじんも將門將しやうもんしやうを出すだすと云ふて居る通りである。日本にっぽんにも如此おんき學問がくもんのある夫婦ふうふが相並あひあひで善い子供よきこどもを擧げ、其の子供そのこどもの知識ちしき徳操とくそうによりて國くにを富ます。隣あつちにあらざれば、到底たうてい國くにを強ふする事は出来ぬから、此この女子おんなに大學だいがく校がう設立せつりに就て富國ふこくと云ふ事を話す次第しだいで御座る。
女子おんなに教育きういくが十分じふぶん與へてないと夫婦ふうふとなつてから、亭主ていしゆが

外國に一寸遊歴に出掛けようとするにも、之を止むるの氣分になつて、せうもあらぬと云ふものは、今日迄日本國の人々が歐米に行く者で、夫婦連で行く者があるかと尋て見ると、實に僅々な者じや、漸やくにして、役人社會の公使となり領事となる人には、夫婦連で行く人々もある位のことだ。それで、設令ひ漫遊するのも、外國貿易に出掛るものも、妻が良人と同行もし、且つ、良人に外國貿易をなさるとが、いと勸誘するも、女子の教育が大に與て力あると考ふるから、我日本國が商を以て此の國を富まさねばならぬと云ふ國是を採つた以上は、何處迄も女子の學問の力を以て、廣く外國へ

遊び貿易もすると云ふ様にならぬと、決して十分の富國となることは出来ぬと云ふを、憚りませぬ。終りに臨んで一言申上げ度のは、公共に對し、或は貧民とか何とか云ふことに對して、慈善金、慈善金、又は寄附金と云ふ事がある。此の寄附金とか慈善金と云ふ事に就て、西洋人と東洋人との相違と云ふものは、甚しきことと思ふ。日本人も常に愛國心と云ふことは、類りと云ふ、よい事じや、併し、その愛國のことが小さい小なる愛國じや、西洋人の愛國と云ふ事は、大なる愛國心である。何せかと云ふに、例へば一個の日本人が十萬圓の身代をこしらへたと見ると、其の金は、殘らず

子孫にやりたいと思ふ者が日本人にはある人情に於ては免れないことであるが子孫にのみ此の金をやつて任舞ふと云ふ事は實に小さい愛國心にして只一己の愛國心じや古人も云ふて居る子孫の爲に犬馬となる勿れとこれ必竟只子孫を愛するのみに止て前に云ふ通りに愛國心の極小さいものじや之に反して西洋人は例へば十萬圓の身代を一代に儲けたとすれば之を自分の末期に及んで遺言し或は遺書にして云はく此の十萬圓の内金五萬圓は子孫にやり何萬圓は之を親族に分配せよ又其内一萬圓は乞こそこの學校へ寄附せい他の一萬圓は貧民とか何とかと云ふ

者を助くる處へやれと申して自分の死する時分に之を廣く分與する。さあ其の金が積で學校も盛大になり貧民もそれで助かつてくるとすると其影響が多數の人に及んで來るから愛國心の大なるものではないかと率平か論じまするのじや司馬溫公座右の銘に云ふものによればこれは誰れも知つて居る語じや金を積で子孫に遺す子孫能く之を守らず又書を積で之を子孫に遺す子孫能く之を讀ます。そうして陰徳と云ふものを冥々の裡に積む之れが子孫永久の本だと論じてある實に此の語と云ふ者は洋の東西を問はず金言だと私は思ふ。それで金を残らず子孫にやらすし

て斯云ふ善事に使ひたいと思ふ、そう云ふことに出ださずして金を子孫にのみ遺しては、それは決して子孫長久の策でない、私は断言することを憚りませぬ(拍手大喝采)

女子教育演說終

明治三十年八月一日印刷
全三十年八月十日發行

定價拾二錢

編輯兼發行者 青木恒三郎

發賣所 青木嵩山堂

全 大阪市心齋橋筋博勞町 青木嵩山堂

賣捌所 勢州四日市港堅町 嵩山堂支店

印刷所 大阪府西區土佐堀三丁目廿八番屋敷 嵩山堂印刷所

文部大臣侯爵西園寺公望公題字
華族女學校長從三位細川潤次郎先生序
成瀬仁藏先生著

女子教育

西洋綴菊版形三百頁

正價三拾錢郵稅六錢

日本帝國民が戰捷後の日本の國威を振張し國光を發揚し以て富強の國民として世界に横行濶歩せんに必ず先づ國民の素養を女子教育に起さざる可らず、蓋し根本を家庭に有せざる教育は架空の教育なればなり、本書が戰捷の翌春を以て、諸君に見ゆる實に偶然にあらざる也。本書は内國の女子教育に多年の經驗あるのみならず、數年間女子教育最盛の國へ高き北米合衆國に遊び、そが學理と實地とを探究見聞せられたる成瀬先生の筆に成りたるものなれば、架空の論陳腐の説にあらざるは細川先生の序文に云へるが如し、教育家、子女の父兄、及女學生諸君は勿論苟も邦家の前途を憂ふる者の必ず座右に欠く可らざる良書なり。

公侯伯
爵爵爵
近衛篤磨
蜂須賀茂韶
大隈重信
内海忠勝
島田三郎君
江原素六君
成瀬仁藏君

演說
演說
演說
演說
演說
演說
演說
演說

女子教育談

西洋綴美本全一冊
正價 金拾貳錢
郵 稅 貳 錢

本書は目下世上の一問題となりたる女子大學校設立に就ての朝野名士の名論卓説を集めたる新書にして世の教育家及び子女の父兄女學生たるもの、一讀せざる可からざる好書あり

Bookkeeper®

Deacidification for Libraries and Archives

January 2014